



# 善永寺報 報恩講版

みのりの秋も深まり報恩講の季節となりました。報恩講は浄土真宗門徒にとつて最も大切な行事です。

宗祖親鸞聖人が弘長二(一二六二)年十一月二十八日に亡くなられましたが、この日を今日の暦に換算すると一月十六日になります。京都の本願寺では一月九日から十六日まで、宗祖のご恩に感謝する「ご正忌報恩講」が勤まります。浄土真宗の各寺院や門徒は、一月は本山にお参りするのので、それ以前に「お取り越し」といって、それぞれに報恩講をおつとめ致します。

今年の特に二〇一二年に親鸞聖人の七五〇回忌をむかえるにあたり善永寺では今年の十一月二十三日(勤労感謝の日)に報恩講に合わせ七五〇回大遠忌法要をお勤めいたします。善永寺の報恩講では他の法要と違った御荘厳(お飾り)や、行事があ

ります。

初夜勤行 午後四時より本堂にて初夜礼讃をおつとめします。このお経は親鸞聖人の頃から伝えられた節で、当時の歌謡の曲といわれています。また初夜勤行に引き続き「御伝鈔」の拝読をいたします。またいつもと違い本堂前には幔幕

親鸞聖人七五〇回  
大遠忌法要並びに  
報恩講法要

を張り、本堂内の左余間には、四幅の「親鸞聖人御絵伝」を奉懸します。二三日には法要前に「おとき(齋)」の接待をします。これは古くから門徒が共に同じお膳を囲み、信心を語り合う場として、各地で取り入れられていたことでした。是非法要前ですが、おときを召し上がりながら近くの方と語り合っていたいただきたいと思

います。報恩講は当寺の一番大事な法要ですから是非みなさまお参りください。お参りの際は門徒式章、御念珠をお忘れなく。

## ○報恩講法要

日時 平成二十二年十一月二三日(火)

勤労感謝の日

午前十一時より おとき(軽食)

正午 より 親鸞聖人七五〇回

大遠忌法要ならびに報恩講法要

奉讃大師作法

御俗姓拝読

ご消息披露

親鸞聖人伝記掛け図披露

ひきつづき 御法話

教誓寺 住職 佐々木義史師

二十二日(月) 午前十時半 幼稚園児報恩講

二十日(土) 午後五時 スカウト報恩講

二十二日(月) 午後四時 初夜勤行

(初夜礼讃) 御伝鈔下巻拝読

二十二日より二日間、午前七時の晨朝法要は

正信偈行譜です。



### 親鸞聖人七五〇回大遠忌についての ご消息

平成二四年一月一六日は、宗祖親鸞聖人の七五〇回忌にあたります。本願寺では、ご修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を平成二三年四月よりお勤めすることになりました。このご勝縁に、聖人のご苦勞をしのび、お徳を讃えるところにも、浄土真宗のみ教えを深く受けとめ、混迷の時代を導く灯火として、広く伝わるよう努めたいと思います。

親鸞聖人は承安三年に御誕生になり、6歳で出家得度され、比叡山で学問と修行に励まれました。しかし、迷いを離れる道を見いだすことができず、二九歳の時、聖徳太子の示現を得て、源空聖人に遇われ、本願を信じ、念仏する身とられました。35歳の時、承元の法難により、越後にご流罪となられますが、後にはご家族を伴って関東に移り、人びとと生活をともにし、自信教人信の道を歩まれました。晩年は京都で、ご本典の完成に努められるとともに、三帖和讃など多くの著述にお力を注がれ、九〇歳を一期として往生の素懷を遂げられました。

親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、あらゆる人びとが、阿弥陀如来の本願力によって、往生成仏し、この世に還って迷えるものを救うためにはたらくという教え

です。南無阿弥陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日々を過ごさせていただくのです。

仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。ところが今日では、人間中心の考えがいよいよ強まり、一部の人の利益追求が極端なまでに拡大され、世界的な格差を生じ、人類のみならず、さまざまな生物の存続が危うくなっています。さらに、急激な社会の変化で、一人ひとりのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか。お念仏の人生とは、阿弥陀如来の智慧と慈悲とに照らされ包まれ、いのちあるものが敬い合ひ支え合って、往生浄土の道を歩むことであります。如来の智慧によって、争いの原因が人間の自己中心性にあることに気付かされ、心豊かに生きることのできる世の中、平和な世界を築くために貢献したいと思えます。

私たちの先人は、厳しい時代にも、宗祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思いとともに、助け合ってこられました。この良き伝統を受け継がなければなりません。しかしながら、今日、宗門を概観しますと、布教や儀礼と生活との間に隔たり

が大きくなり、寺院の活動には門信徒が参加しにくく、また急激な人口の移動や世代の交替にも対応が困難になっています。

宗門では、このたびのご法要を機縁として、長期にわたる諸計画が立てられ、広く浄土真宗が伝わるよう取り組むことになっています。七〇〇回大遠忌に際して始められた門信徒会運動、重要な課題である同朋運動の精神を受け継ぎ、現代社会に因應する宗門を築きたいと思えます。そのためには、人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支え合う組織を育て、み教えを伝えなければなりません。あわせて、時代に即応した組織機構の改革も必要であります。

それとともに、各寺各地で勤められる大遠忌法要を契機に、その地に適した寺院活動や門信徒の活動を、地域社会との交流を、そして、寺院活動の及ばない地域では、一層創意工夫をこらした活動を進めてくださるよう念願しております。

宗門の総合的な活動の新たな始まりとして、皆様の積極的なご協賛ご協力ご参加を心より期待いたします。

平成一七年

二〇〇五年一月九日 龍谷門主 釋即如

「ご消息」とはお手紙のことです。特に浄土真宗では、さまざまなご縁に際して、歴代の宗主が、そのお心を広く伝えるため出された書簡のことを「ご消息」と称しています

# 報恩講について(解説)

## 報恩講のおこり

浄土真宗の報恩講のはじまりは、親鸞聖人が往生されてから、師法然上人のご命日に「二十五日のお念仏」をおつとめされていたものを、「毎月二十八日」と、親鸞聖人の命日に改められた念仏の集會がおこりとうけとられました。

第三代覚如上人は、永仁二年(一二九四)の冬、親鸞聖人の三十三回忌を迎えるにあたって、報恩謝徳のために『報恩講式』を作られ、これ以来、親鸞聖人のご命日におつとめする法要を「報恩講」と呼ぶようになりました。

続いて翌年、聖人御一代を絵巻形式の絵図と詞書であらわされた「善信聖人絵」(親鸞伝絵)を作られ、現代もこれが基礎となって、御絵伝は余間に、また「御伝鈔」を拝読するのが報恩講のならわしとなっています。

## 御伝鈔と御絵伝



覚如上人が作られた「善信聖人絵」は、詞書の文章と絵とを交互に配した絵巻形式の伝記ですが、その後、増補改訂されて題名も「本願寺聖人親鸞伝

絵」となりました。

それがいつの頃からか、聖人のご生涯を多くのご門徒の方が拝見できるようになると、絵巻の文章と絵を別々に分け、今の御伝鈔と御絵伝と呼ばれている形式になりました。これより聖人のご一生の物語が報恩講に拝読され、また余間に御絵伝をお掛けするようになりました。

御伝鈔は上下二巻からなり、御絵伝は四幅本が用いられ、画面の下から上へ、また右から左へと拝見するのが順序となっています。

善永寺の「御絵伝」は元文五年(一七四〇)本願寺より下賜されたものといわれています。

### 築地本願寺の報恩講

築地本願寺では十一月十一日から十六日まで報恩講法要がお勤めされます。こちらへも是非お参り下さい。

### ご本山の報恩講

ご正忌報恩講と呼ばれ、一月九日から十六日まで西本願寺の総御堂でおつとめになります。

### ○常例法座(毎月第二日曜午後三時)

十二月は、十一日に常例法座として涅槃会の法要とお話しをします。

### ○おはなし会

第四回目の「おはなし会」(絵本の読み聞かせ)を開催します。読書の

会・JRAC首都圏支部の皆さんにおいでいただき善永寺の本堂で行います。  
日時 十一月十九日(日)午後二時より三時半まで  
どうぞみなさんおいでください。

### ○初御座・門信徒新年会

日時 平成二十三年一月九日(日)午後一時(詳細は後報)

### ◎新門様善永寺へ

一〇月二十八日午後二時、築地本願寺の副住職で、本願寺の新門(門主後継者)の大谷光淳様が、東京教区内の寺院事情視察のため善永寺へ訪問されました。新門様の他、教務所の所長など四人と南組組長がおいでになり、こちら



らは住職、坊守、前坊守の他、総代の入江照四さんも同席し、善永寺の沿革や善永寺の現状をお話ししました。新門様からは、お寺の周辺の環境や門徒の皆さんの様子、幼稚園やスカウト活動についての質問があり、住職からお答えしました。短い時間でしたが、新門様に東京のお寺についてご理解いただけたことと思います。

### 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

#### 懇志のお願い

善永寺では今年の報恩講法要にあわせ親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を修行いたします。大遠忌とは五〇年ごとの大きな法要で本願寺、築地本願寺でも執り行われます。すでに昨年十月、関東の法要として築地で行われ、また今年十月には南組の法要が行われました。

この法要に際し、本願寺より記念事業や行事などへの懇志（寄付）として善永寺には三、五四八、四〇〇円の依頼があり、また築地本願寺よりは本堂内の荘厳の修復などを行うため、善永寺に対し、一、七七四、二〇〇円の懇志依頼がありました。すでに本願寺の分については、完納いたしました。そして今年になり築地本願寺の懇志依頼がありました。そこで今回は善永寺本堂内の音響設備の更新も行うこととし、善永寺の門徒の皆様にも広く声をかけ、懇志をお願いすることとなりました。

趣旨ご理解のうえ、なにとぞ左記要領にて懇志をお願いいたします。合掌  
記  
一、懇志額  
金 壱万円

#### 一、払い込み方法

十一月二十三日当日にお持ちいただくか、同封の振込用紙にて郵便局でお振り込みください。振込の締め切りは十一月三十日といたします。いつもの報恩講の懇志はいりません。

#### 一、記念品

懇志をいただいた方には、記念の品を贈らせていただきます。

#### 一、参考

#### 予 算

#### 歳入

懇志 一万円×四〇〇人

四、〇〇〇、〇〇〇円

#### 支出

築地本願寺懇志

一、七七四、二〇〇円

#### 記念品

一、六〇〇、〇〇〇円

本堂内音響設備など更新

五〇〇、〇〇〇円

諸雑費（おとき、供物など）

一二五、八〇〇円

支出合計 四、〇〇〇、〇〇〇円

善永寺住職 高輪真澄  
善永寺総代世話人一同  
平成二二年一〇月二九日  
善永寺の門信徒の皆様へ



#### 〇親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

#### 団体参拝のお誘い

ご一緒に本山の法要に参加いたします。善永寺は南組の一員として法要に参加いたします。また法要後バスで比叡山そして飛騨高山へ参拝旅行をいたします。申込みは人数把握のため一月九日までにお寺まで申込みください。

平成二三年

六月九日 品川・本山参拝・比叡山泊

一〇日比叡山・郡上八幡・飛騨高山泊

一日高山↓名古屋↓品川解散

費用 一人 七九、〇〇〇円

「善永寺報」報恩講版

発行 浄土真宗本願寺派善永寺

住職 高輪真澄

東京都大田区萩中一―十一―二十四

〒一四四―〇〇四七

電話 〇三―三七三九―五六四一

FAX 〇三―三七三九―五六四〇

http://homepage3.nifty.com/zen-ei/  
E-Mail:takanawa@zeneiji.jp